



容器包装プラスチック使用量 40%削減*1の目標を4年連続で達成 界面活性剤の河川水モニタリングと生態系リスク評価で、問題ないレベルを確認

日本石鹼洗剤工業会（会長：澤田道隆／花王株式会社 社長）は、容器包装プラスチック使用量 第二次自主行動計画（主要8製品群*2における容器包装プラスチック使用量を原単位で、2015年までに1995年比 40%削減）を推進しており、2014年度においても計画を達成しました。

また洗剤の生態系（環境）への影響に関する調査（1998年から継続的に実施）として、国内4河川で主要な界面活性剤4種の濃度を測定し、2014年度も環境への影響に問題のないレベルであることを確認しました。

なお1995年から20年間の容器包装プラスチック使用量の推移ならびに、1998年以降の主要な界面活性剤の過去16年間の環境モニタリングの結果は、冊子『環境年報 Vol.40(2015年度版)』にまとめて掲載しています。

当工業会は、環境に配慮した活動をさらに努力してまいります。

*1 製品出荷量あたりのプラスチック使用量（原単位）、1995年比

*2 主要8製品群：①ボディ用洗剤 ②手洗い用洗剤 ③シャンプー・リンス ④洗濯用液体洗剤
⑤柔軟仕上げ剤 ⑥台所用洗剤 ⑦住居用洗剤 ⑧漂白剤・かびとり剤

【1】製品出荷量あたりの容器包装プラスチック使用量（原単位） 1995年比40%削減を達成

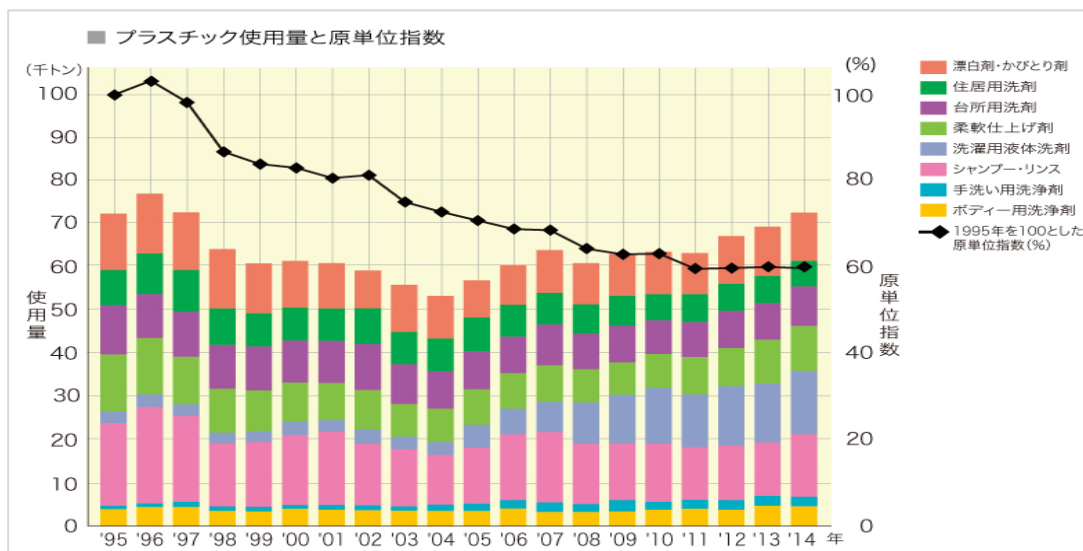
<プラスチック使用量削減・取り組みの背景>

2006年6月に改正された「容器包装リサイクル法」では、容器包装廃棄物の排出抑制の促進が盛り込まれるなど、排出量削減（リデュース）の必要性が高まっています。

当工業会は、1995年より容器包装プラスチックの使用量に関して業界全体での実態把握を行うとともに、2011年には「1995年起点で2015年に原単位で40%削減」という第二次自主計画を策定し、会員各社において使用量低減に取り組んできました。

<2014年削減実績>

第二次自主行動計画4年目の2014年度における主要8製品群の製品出荷量あたりの容器包装プラスチック使用量（原単位）は、1995年比で41%削減となり、4年連続で自主計画目標を達成しました（下図）。なお対象製品群の製品出荷量は前年比5.2%増で、容器包装プラスチック使用量は前年比4.6%増の72.3千トンとなりました。



＜容器包装プラスチック使用量の新たな削減事例集を公開＞

当工業会では、容器包装プラスチック使用量削減の具体的な事例を会員各社から集め、会員社のみならず業界を超えて参考にしていただきたいと考え、従来からホームページに公開してきました。12月15日に、新たな事例を追加し、当工業会のホームページに公開しました。

【2】洗剤成分の生態系影響に関する評価結果

当工業会では、洗剤の生態系（環境）への影響に関する調査を1998年から継続的に行なっています。代表的な界面活性剤として、LAS、AE、AO^{*3} について、関東および関西の4河川^{*4} で、年4回の濃度測定による環境モニタリングを実施しています。さらに2012年度からは、柔軟剤基剤としてもちいられている、TEAQ^{*3} のモニタリングを開始しました。なお、1998年から2013年までの調査で河川水中濃度が低いことが確認された DADMAC^{*3} については、製品への使用量の低下傾向が予測されたことから、2013年度を最後にモニタリング対象から除外しました。

*3 LAS: 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム AE: ポリオキシエチレンアルキルエーテル
AO: アルキルジメチルアミノオキシド TEAQ: トリエタノールアミン4級塩
DADMAC: ジアルキルジメチルアンモニウムクロリド

*4 多摩川、荒川、江戸川、淀川の4河川7ヶ所。
(家庭排水が流入する可能性が比較的大きいと考えられる代表的な都市周辺河川。)

＜界面活性剤の環境モニタリング結果と生態系リスク評価＞

LAS、AE、AO 及び TEAQ の予測無影響濃度（水生生物への影響が表れないと予測される濃度）は、それぞれ 270 $\mu\text{g/L}$ 、110 $\mu\text{g/L}$ 、23 $\mu\text{g/L}$ 、及び 43 $\mu\text{g/L}$ であることが既に報告されています。

2014年度の環境モニタリング結果は、1998年度～2013年度と同様に低い濃度を維持しており、それぞれの環境濃度は予測無影響濃度を下回っています（下表）。したがって、調査対象の河川においては、界面活性剤による生態系リスクは小さいと考えられます。

これらの界面活性剤の生態系リスク評価については、日本水環境学会^{*5}で発表を行い、当工業会の活動の一部として公表しています。

■界面活性剤の環境濃度と予測無影響濃度の対比

（単位： $\mu\text{g/L}$ ，nd：不検出）

項目		LAS	AE	AO	TEAQ
河川水濃度	2014年度 モニタリング結果 (最小値～最大値)	nd(<0.1) ～30	0.012 ～1.80	nd(<0.01) ～0.14	nd(<0.0012) ～3.7
	調査最大値 (98年度～14年度)	81.0	31.0	1.9	3.7
予測無影響濃度		270	110	23	43

*5 第49回日本水環境学会年会 2015
日本石鹼洗剤工業会、家庭用洗剤に用いる界面活性剤の河川表層水・底質モニタリング
および生態系リスク評価

日本石鹼洗剤工業会は、製品をお使いいただく皆様にさらなる安心をお届けできるよう、科学的調査・研究活動に今後とも積極的に取り組み、情報の開示に努めてまいります。

*この資料は、重工業記者クラブに配信しています。

お問い合わせ窓口：日本石鹼洗剤工業会 TEL03-3271-4301（代表）